

科 目 名	歴史総合	必修 2年次・2単位
目 標	近現代の世界及び日本の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づいて理解し、近現代世界の特質を広い視野から考察することにより歴史的思考力を養う。	
位 置	次年度以降の「世界史探究」及び「日本史探究」につながるだけではなく、歴史的な見方や考え方を日常づ け の場面でも利用できるようになる事が必要です	

■使用する教材 ・教科書 歴史総合 近代から現代へ（山川出版社） ・副教材 明解歴史総合図説 シンフォニア（帝国書院） ・自作プリント ほか		■学習する単元とおおよその時期 ・結びつく世界と近代化への問い【4月】 ・近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立【5月】 ・明治維新と日本の立憲体制【6月】 ・帝国主義の展開とアジア【7月】 ・国際秩序の変化や大衆化への問い【8月】 ・第一次世界大戦と大衆社会【9月】 ・経済危機と第二次世界大戦【10月】 ・戦後の国際秩序と日本の改革【11月】 ・グローバル化への問い【12月】 ・冷戦と世界経済【1月】 ・グローバル化する世界【2月】 ・現代の課題【3月】	
■授業の流れ、予習・復習を含めた学習方法 本時の説明 教科書の確認 歴史総合ノート（プリント）を使った流れの説明 問いの提示 問いに対する解答をグループで考察 解答を発表（個人・グループ） 解答の説明とノート（プリント）への記載			

■観点別評価について

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	A 近現代史についての基本的な事柄を理解し、その知識を詳細に身につけることができた。	地図や資料をみて、課題を適切に読み取ることができた。 自分の歴史観と解決案を適切に表現することができた。	近現代史に対する関心を高め、自発的に追求するとともに、その意欲を提出プリントによく表すことができた。
	B 近現代史についての基本的な事柄を理解し、その知識をある程度身につけることができた。	地図や資料をみて、課題をある程度読み取ることができた。 自分の歴史観と課題の解決案をある程度表現することができた。	近現代史に対する関心を高め、自発的に追求するとともに、その意欲を提出プリントにある程度表すことができた。
	C 上記が達成できていない	上記が達成できていない	上記が達成できていない
評価の場面	定期考査	定期考査 レポート（グループ・個人）	課題の提出状況

■領域ごとの授業時間数について（現代の国語、言語文化 のみ）

単元名								
話すこと・聞くこと								
書くこと								
読むこと								

※前頁の「■学習する単元とおおよその時期」とリンクさせてください

■領域ごとの授業時間数について（英語コミュニケーションⅠ のみ）

単元名								
聞く								
読む								
書く								
話す（やりとり）								
話す（発表する）								

※前頁の「■学習する単元とおおよその時期」とリンクさせてください

■自己評価について

授業評価と連動させた Google フォームで、実施します。

- ・生徒自身が3観点について、振り返る
- ・生徒自身の取り組み方について
- ・教員の授業について